今週の富大生

Weekly TOMIDAISEI

第49号

総合医薬学研究科
総合医薬学専攻
先端薬科学プログラム
薬品製造学研究室
博士前期2年
札幌光星高等学校
（北海道）

地道に研究を積み重ね、学会受賞の結果につなげる

「薬都·富山」に惹かれて受験

高校1年生の時に、身近に病を患った人がいました。医師とヒアリングをして投薬治療をする様子を見て、根本治療に至っていなかったことが気になりました。ちょうどそのタイミングで進路について考える機会がありました。前述の経験で、私は新薬の開発をして、根本治療に携わりたいと考えるようになりました。創薬について学べる大学を探しました。大学によっては、入学後に創薬コースを選ぶところがあります。富山大学は入学時に創薬科学科を選択することが出来ます。「薬都　富山」というところに惹かれ、富山大学薬学部創薬科学科を受験し、進学することを決めました。

ギャップがそこまでない富山での生活

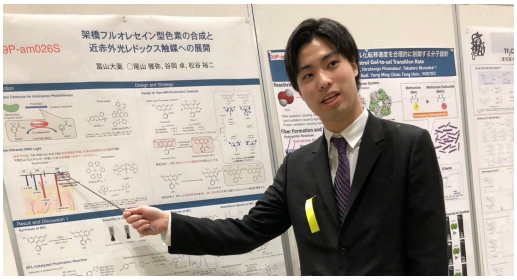
富山に来たのは、受験の時が初めてでした。地元は北海道の中でも都市部でした。富山で大学生活を始めてみて、いい意味でギャップがありませんでした。富山は海鮮もおいしいし、雪も慣れているので、生活はしやすかったです。１点違うところが、富山は車社会なところです。一年次に運転免許を取得し、車移動が中心の生活になりました。ドライブも楽しく、新しい趣味が増えてよかったです。

研究室配属後、改めて勉強しなおす

学部３年次の後半に研究室配属が決まります。希望していた松谷先生の薬品製造研究室に入ることが出来ました。研究室配属後は、最初は楽しさを感じるよりも大変だと思うことが多かったです。学部時代の勉強では有機化学が一番苦手でした。しかし、研究室で行う研究は有機化学がメインです。研究室で先生と先輩からのご指導のもと、改めて勉強しました。単なる暗記ではなく、頭を使って原理を覚えると応用出来て、数学のような楽しさを感じました。

学会受賞をきっかけにモチベーションに

研究室に入ってからは研究中心の生活です。研究の進め方について考え、行動することが最初はハードでした。それでも、地道にコツコツと研究を続けてきたことが成果につながりました。学部４年次に日本薬学会第１４４年会で学生優秀発表賞を受賞することができました。時々リフレッシュしながら研究を続け、今年３月に日本薬学会第１４５年会で２年連続の学生優秀発表賞（ポスター発表）を受賞することが出来ました。



卒業後の進路について

研究を続ける中で、薬が市場に出るまでのプロセスの複雑さを目の当たりにしました。僕はもともと、たくさんの人の命を救う手助けがしたいという思いがありました。薬を開発してから市場に出るまでの手助けとして、創薬ターゲットの特定後の最適化や合成などの手助けをしたいと思うようになりました。卒業後は、試薬のメーカーに進もうと思っています。どんどん試薬を創出し、新薬開発に関わっていきたいと考えています。

母校の後輩たちへ

自分の進路は大学に入ってからもまだまだ考える機会はあります。一つの学部についても多くの学問やできる業務が存在するからです。焦らず！自分のやりたいことができるように頑張って下さい！

Vol. 49

取材日：2025年6月4日